

科目名	金融機関論	科目分類	■ 専門科目 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記	Financial Institution	開講年次	□ 1年 ■ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	のぐち ひでゆき	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	野口 秀行	実施方法	□ 対面のみ □ 遠隔のみ ■ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	金融機関の情報生産活動に注目し、情報の非対称性に起因する金融機関の本質的な役割を学びます。あらたにフィンテック法についても学びます。				
到達目標	金融機関の主要な役割は資金供給と同時に情報生産活動にある。この情報生産の側面を学習し、金融機関の役割を社会的な視点から理解できるようになることを期待します。				
授業概要	金融機関の社会的な役割を、情報生産の観点から学習します。				
授業計画	講義資料と教科書を併用して授業を進める。				
第1回	金融機関の役割。情報生産活動とは何か？ 貸せる力の根底にあるもの。				
第2回	日本の金融機関の現状：金融機関の定義と金融業の産業組織、銀行の貸借対照表と損益計算書				
第3回	金融機関の情報生産活動の基礎 モニタリング、スクリーニング、情報の非対称性				
第4回	日本経済の戦後の高度成長を支えた傾斜金融と護送船団方式				
第5回	高度成長の終焉と金融機関の役割の変化				
第6回	戦前の地方銀行の統合と特殊金融機関とその戦後の役割の変化				
第7回	戦後の金融制度：銀行の市場規律、インバンク、預金保険制度、自己資本比率規制				
第8回	金融機関の情報生産活動による経済効果② 平均費用曲線と銀行間合併の経済学的根拠				
第9回	世界的な金融再編 ビッグバンとは				
第10回	地方金融機関の再編は待ったなし 地方経済の阻害要因と化した地域金融機関				
第11回	バブル経済の崩壊とノンバンクそして債権買取機構：SPCとは				
第12回	銀行とファンド：プライベートエクイティファンドハンズオンファンド				
第13回	リーマンショックと投資銀行の凋落				
第14回	中央銀行の役割の変化：日銀のレジームチェンジとは、FRBの影響力を知る				
第15回	仮想通貨の誕生、フィンテック法の施行と銀行業の今後の展開予想				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと				
履修条件 受講のルール	なし。				
テキスト	プリント配布				
参考文献・資料	追って連絡します				
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日				
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)				
実務経験及び実務を活かした授業内容	日本政策投資銀行に勤務。審査・融資・企画業務を経験。また設備投資研究所、開発総合研究所において研究・調査実務にも従事。我が国における不動産証券化業務に携わるとともにREITやプロジェクトファイナンス手法などを他行に先駆けて我が国に紹介。政投銀とのネットワークを活かした最新の情報を提供する。				

学生への
メッセージ

グリーン≠ボンドやサステナブルリンクローンなど地方金融機関の進むべき道があります。